

B O O K

『研修医・医学生・看護師のための
臨床力がアップする
病理解剖活用術』

著者

日本医科大学 東京通信病院

田村 浩一

田村浩一先生の著書「研修医・医学生・看護師のための臨床力がアップする病理解剖活用術」の「書評」執筆を仰せつかった。モダンメディア編集員として、身が引き締まる思いの私の初仕事である。

医療での、病理解剖の重要性は論を待たないが、最近は症例数が激減している。さらに本書のp113のコラム「高齢者の剖検」にあるが、多疾患に治療効果の修飾も加わって、複雑に交絡あるいは独立して存在する症例も多い。病理医は曼荼羅か鳥獣戯画のごとき病態絵巻を読み解かねばならない。

本書では教訓的で示唆に富む病理解剖例が臨床歴、検査所見、マクロ、ミクロ所見、病態考察の構成で多数提示されている。初期研修修了要件であるCPC*レポートの模範として研修医に提示したい。医学部高学年では、授業「学生CPC」を行っているが、教材として有用である。さらに、看護師のみならずメディカルスタッフには手に取っていただき、病理解剖で多くのことがわかり、医療に活かされていくことを感じてほしい。

今後は院内CPCへの臨床検査関係者の一層の参入が求められる。本書でも検査値が各症例の臨床歴の後に掲載されている。こうしたデータを通り一遍に読んでいることが反省される。一点だけを取り上げて値の高下を論ずるのはいかがなものか、と考える。臨床検査医学会では検査値から病態を推測するR-CPCが行われているが、こうしたディスカッションを病理解剖所見(もし患者さんが不幸にして死亡された場合には)と組み合わせて多職種のカンファレンスができればいいと考える。

本書では肉眼写真がきれいに撮影されており、病態がよくわかる。本書掲載の症例の多くは心臓に問題があり死亡したものが多。心臓というと虚血性心疾患、弁膜症はまだしも、不整脈死となると形態的に分かりにくく、迷宮入りのにおいが漂う。そうした症例も丁寧に検索し、病態に肉迫しようとする田村先生の熱意が感じられ、大いに見習うべきと感じ入った。研修医、医学生、看護師のみならず、臨床検査に関わる医師、メディカルスタッフに本書を手にとっていただきたいと考える。

田村浩一先生と知り合ったのは病理学会ではなく、医学教育学会であった。当時、医学教育の重要性が叫ばれ、基礎と臨床の懸け橋としての病理学教育のあり方を模索し、医学教育学会に多くの病理医が参加された、その一人であった。先生には多くの教をいただいた。先生は早くから病理外来を開設されており、患者さんやそのご家族との接点を持たれていた。病理転向以前の外科医としてのキャリアも相まって、本書にも病理愛、医学愛、患者愛が詰まっているように思われる。

かなり前になるが、春爛漫の候、田村先生ご勤務の東京通信病院にお招きいただき、病院前の桜をめてた後、神楽坂の隠れ家風の店で一献傾けたことを懐かしく思い出す。先生には、また、こうした機会をいただければこの上ない幸せである。

*Clinico-pathological conference: 臨床病理カンファレンス

東京女子医科大学 病理診断科 教授

長嶋洋治

発行：株式会社三輪書店 〒113-0033 東京都文京区本郷6-17-9 本郷綱ビル

定価：本体4,800円＋税